

Title	アメリカ詩人エミリー・ディキンソンの受容史
Sub Title	Emily Dickinson's reception history
Author	朝比奈, 緑(Asahina, Midori)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>『エミリー・ディキンソン 詩集 (ミラー版) — 芸術家を魅了した50篇』 (下村伸子、武田雅子との共著) (小鳥遊書房、2021年)において、音楽、アート、絵本、映画、舞踏、詩と小説、エッセイなどのジャンルにおいて、ディキンソンの詩に影響を受けて創作をした芸術家たちを取り上げた。筆者が分担として論じた芸術家は以下の通りである、音楽においては、アーロン・コーブランド、武満徹。絵本においては、エリザベス・スパイアーズと長田弘。舞踏においてはマーサ・グラハム。詩と小説などについては、リチャード・ブローディガン、ウィリアム・スタイロン、マルグリッド・デュラス、吉増剛造、日野啓三、ウィリアム・ハウエルズ、リチャード・ウィルバー、アドリアンヌ・リッチ、辻邦生、アダム・ゴプニック、ロバート・フロスト、ダニエル・キイスである。また本書の前書きや全体の編集も担当した。詩のテキストとして、Emily Dickinson's Poems: As she Preserved Them, edited by Crisianne Miller (Harvard UP, 2016)を用いた本邦初の翻訳を収めている。詩人の草稿の状態を紹介し、詩の解釈については、ミラー版の注釈を紹介、また詩人が使用していた辞書ノア・ウェブスターの英語辞典への言及を取り入れ、当時の歴史的・社会的背景を丁寧に説明している。</p> <p>また論文「エミリー・ディキンソンに魅せられて—武満徹晩年の5曲」では、作曲家武満徹がディキンソンの詩にどのように感応したのか、特に晩年のエッセイにおける言葉から探ってみた。また武満と交流があった詩人吉増剛造について、どのようにディキンソンの詩を受容し、自らの作品に取り入れているのかを、英文論文"Dickinson's Reception in Japan"(Oxford UP)において論じた。この論文では、日本における翻訳の歴史も概観している。特に翻訳のトーンに注目し、詩人高見順や小池昌代の翻訳を分析している。</p> <p>Looking Back on the Reception History of Dickinson in Japan</p> <p>First, we look back on the translation history with a special attention to the significance of tone. David and Mabel Todd's scroll written in Esashi, Hokkaido in , the Poet Jun Takami's elegant juxtaposition of Dickinson's poetry with modern art in the magazine Lady's Graphics in the 1950s, and the poet Masayo Koike's recent translation reflecting on Japanese classic literature are brought into focus.</p> <p>Second, we witness two influential artists' response. One is Toru Takemitsu, who composed five music pieces inspired by her poems, and the other is the contemporary poet Gozo Yoshimasu, who referred to her poems in his experimental writings.</p> <p>Third, we report our unique way of appreciation through koh-do (incense ceremony). Thus, by continuously stimulating our sense of sight, sound, and smell, Dickinson's poetry shows its transcultural power in Japan.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210007">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210007</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	商学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	朝比奈 緑	氏名 (英語)	Midori Asahina		
研究課題 (日本語)						
アメリカ詩人エミリー・ディキンソンの受容史						
研究課題 (英訳)						
Emily Dickinson's Reception History						
1. 研究成果実績の概要						
<p>『エミリー・ディキンソン 詩集(ミラー版)―芸術家を魅了した50篇』(下村伸子、武田雅子との共著)(小鳥遊書房、2021年)において、音楽、アート、絵本、映画、舞踏、詩と小説、エッセイなどのジャンルにおいて、ディキンソンの詩に影響を受けて創作をした芸術家たちを取り上げた。筆者が分担として論じた芸術家は以下の通りである、音楽においては、アーロン・コープラント、武満徹。絵本においては、エリザベス・スパイアーズと長田弘。舞踏においてはマーサ・グラハム。詩と小説などについては、リチャード・ブローディガン、ウィリアム・スタイロン、マルグリッド・デュラス、吉増剛造、日野啓三、ウィリアム・ハウエルズ、リチャード・ウィルバー、アドリアンヌ・リッチ、辻邦生、アダム・ゴプニック、ロバート・フロスト、ダニエル・キイスである。また本書の前書きや全体の編集も担当した。詩のテキストとして、Emily Dickinson's Poems: As she Preserved Them, edited by Cristanne Miller (Harvard UP, 2016)を用いた本邦初の翻訳を収めている。詩人の草稿の状態を紹介し、詩の解釈については、ミラー版の注釈を紹介、また詩人が使用していた辞書ノア・ウェブスターの英語辞典への言及を取り入れ、当時の歴史的・社会的背景を丁寧に説明している。</p> <p>また論文「エミリー・ディキンソン に魅せられて―武満徹晩年の5曲」では、作曲家武満徹がディキンソンの詩にどのように感応したのか、特に晩年のエッセイにおける言葉から探ってみた。また武満と交流があった詩人吉増剛造について、どのようにディキンソンの詩を受容し、自らの作品に取り入れているのかを、英文論文「Dickinson's Reception in Japan」(Oxford UP)において論じた。この論文では、日本における翻訳の歴史も概観している。特に翻訳のトーンに注目し、詩人高見順や小池昌代の翻訳を分析している。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
Looking Back on the Reception History of Dickinson in Japan						
<p>First, we look back on the translation history with a special attention to the significance of tone. David and Mabel Todd's scroll written in Esashi, Hokkaido in , the Poet Jun Takami's elegant juxtaposition of Dickinson's poetry with modern art in the magazine Lady's Graphics in the 1950s, and the poet Masayo Koike's recent translation reflecting on Japanese classic literature are brought into focus.</p> <p>Second, we witness two influential artists' response. One is Toru Takemitsu, who composed five music pieces inspired by her poems, and the other is the contemporary poet Gozo Yoshimasu, who referred to her poems in his experimental writings.</p> <p>Third, we report our unique way of appreciation through koh-do (incense ceremony).</p> <p>Thus, by continuously stimulating our sense of sight, sound, and smell, Dickinson's poetry shows its transcultural power in Japan.</p>						
Key Words						
Translation history in Japan, Mabel Todd, Jun Takami, Masayo Koike, Toru Takemitsu, Gozo Yoshimasu, Incense ceremony						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
朝比奈緑	『エミリー・ディキンソン 詩集(ミラー版)―芸術家を魅了した50篇』	小鳥遊書房	2021年			
朝比奈緑	Dickinson's Reception in Japan	Oxford UP	2022年			
朝比奈緑	「エミリー・ディキンソン に魅せられて―武満徹晩年の5曲」	藝文研究	2021年			